

横浜国際総合競技場ボランティアだより

INTERNATIONAL
STADIUM
YOKOHAMA

ボランティアわ

ボランティア【ボルトガル語で舵とり】 わ【輪、和】を意味します

2001年
10月13日発行
秋号(季刊)
Vol. 6

～ ボランティア研修・交流会特集 ～

平成13年度の見学・運営ボランティア研修会と第2回交流会開催

9月24日、見学21名・運営104名のボランティアが参加して、見学部会・運営部会の研修会が開催されました。続いて開かれた交流会では、西田場長、木村副場長はじめ、事務局の方々も多数参加してくださいました。

また、横浜F・マリノスからも中村チーム統括本部長が多数の賞品を携えて参加していただき、日頃、活動でお世話になっている、横浜シズ、日総からも交流を深めるべく参加していただきました。賞品争奪クイズなど楽しい時を過ごし交流を深めていただけたでしょうか。西田場長と事務局からご祝儀を、横浜F・マリノスから多数の賞品をいただき、またボランティアの有志から多くの差入れをいただきましたことを、この場を借りましてお礼申し上げます。次回の交流会を楽しみに...!!! 委員長：橋口 正(U)



【運営部会研修会】

「運営部会研修会」は301号会議室で開催されました。事務局スタッフ及び西田場長もご同席され活発な意見交換の場として自由な意見発表を前提に執り行いました。

第一部では、時間の制約上全員の意見を聞くことは不可能でしたが、テーマの「リーダー制導入による活動」については、「リーダー制賛成」の意見が多数あり、今後もリーダー制が継続運営されると思います。

第二部では、西田場長からお話をいただき、「今後の注目はワールドカップ、最大は横浜での決勝戦が世界の注目の的である」との熱いメッセージがありました。ワールドカップのボランティア活動される人は内心「頑張るぞ」と決意を新たにされたことでしょう。

第三部は、プレ大会の「コンフェデレーションズカップ」での体験報告を行い、今後の「ワールドカップ、Jリーグの活動」へ反省を活かし、成果を向上させていこうとのことでした。

第四部は他チームでのボランティア活動/Jリーグボランティア交流会についての報告があり、「横浜国際総合競技場以外」の「生情報」が聞き役に立った事と思います。機会があれば他スタジアムへ足を運んでいただき、参加してみたいかがでしょうか。

本研修会がステップアップの機会であり、ボランティア活動の役にたった有意義な会であったと思います。本研修の事前準備をされた方々、又発表をされた方々ありがとうございました。 総司会：中山 正(U)

2002FIFAワールドカップ 横浜開催を成功させよう!

【見学会研修会】

見学会研修会は、現在活動中の部会の報告や他の競技場の見学報告などがありました。

はじめに、英語部会では、海外からの見学ツアー参加者に対応するため、英語マニュアルを完成させました。見学ボランティア全員に先日配付し活用しています。その内容も競技場の新しい情報や数値を取り入れられました。

次に、マニュアル部会では、現ツアーのマニュアルの見直しや車椅子参加者の案内コースについて検討しました。まず、今までバックスタンドで行っていた概要説明の場所を北サイドスタンドに分散させて行うという提案がありました。そして、車椅子の案内ルートについては出席者全員で実地研修を行いました。

その後、他競技場の情報に詳しい玉村さんから『札幌ドームツアー』の体験報告がありました。実際のツアーの様子がパソコンで編集され、画面を見ながらの説明を受け、非常に良い勉強になりました。横浜国際総合競技場と比較してみると大変興味深いものがありました。

最後に、西田場長より『横浜はワールドカップ決勝の開催地であるが、その後もお客さまに夢を見せることのできる競技場でありたい。』というお話をいただきました。加藤恵子 (T)

夢を語り、夢に向かって歩もう ～9月24日第2回ボランティア交流会～

W杯決勝戦まで279日。さわやかな秋空のもと前段の研修会で燃えた熱き思いは、そのまま隣接の会場に引き継がれました。西田場長の言葉「ボランティアの心は、いかにお客さんと接するか。いつも自分の心に向き合っていないければならない」が胸に残っています。

今年はインドア、参加者は、競技場から中村課長、村本係長、宮田さん、武ノ内さんも出席されて112名でした。会場の一角には賞品、百数点が並べられていました。これらは、横浜F・マリノスから寄贈された中村選手をはじめとする各選手の色紙やサイン入りボール、競技場や有志から提供された外国チームのユニフォームなど、今年も価値あるお宝物ばかりです。

来賓には西田場長、木村副場長、横浜F・マリノスチーム統括本部長・中村氏、横浜シミズの大村氏、日総の根本氏をお招きしました。「マリノスはなぜ弱いのか」とショッキングな話題で入っていった中村氏の挨拶は、「平均年齢22歳の選手達は精神的な弱さが出て、チームは剣が峰に立っている。しかし後半上昇する」と力強く語られました。返礼として安田委員の掛け声でエール。宮川委員からは、常勝マリノスを祈願してボランティア総員の手で折る千羽鶴を贈る案を発表しました。

横浜シミズ、日総の両氏の感謝の言葉に続き百々委員によりNYの犠牲者に黙とうが行われた後に、木村副場長から「ボランティアの更なる発展を」と乾杯の祝辞をいただいて、グラス片手の相互交流に入りました。用意された3つのテーブルは、活動時では見られない会話が広がり、特に見学の方々は一堂に会する場であるだけに一層の親睦が深められて喜びが溢れていました。談笑が続く中で時折「ファイナルアンサー」の音が響きお待ち兼ねの×ゲーム。お目当てのお宝獲得にいっせいに右左に移動開始。早速かく乱戦法に出る人もいて次々脱落していく。途中で「コンフェデ杯会場(陸上)競技場は横浜だけである」()に、×についた人は写真を見せて抗議。トラックが未完成の説明に「インチキ問題」とブーイングする場面もあったり。次の抽選会は好きな商品が選べる新趣向で、色紙・ユニフォームゲットの度に歓喜が響き、当りのない人のやきもきする姿が一層会場を湧かせていました。

今席上、フットサル大会出場目指して誕生したサッカークラブの紹介がありましたが、席では「女子飲み会」の結成の反応もあり、趣味交流の話題などの話に華が咲いていました。交流会については「心から話合いができる場であり2回欲しい」「研修会とセットを望む」「お互いを知ることができた」「交流の場から連携が強まる」と率直な感想が寄せられました。まだまだ会話が尽きない中の閉会となり、浅見委員は、「横浜会場は我らが軸で」と声高らかにアピール、「私たちは夢に向かって、共に歩もう」と締められました。

佐藤大治 (U)



おじゃましまぁ～す!

～他スタジアム訪問記～

『静岡スタジアム エコパ』 & 『ジュビロ磐田スタジアム』

残暑の中、静岡スタジアム(エコパ)へJリーグ(磐田 - 清水)観戦に行きました。

私は実家(静岡県新居町)から電車で行ったが車内はサッカー観戦の人々で混み合っていた。途中、浜松駅で臨時列車に乗り換え愛野に到着。駅構内も大変な人混みだった。駅の外に出ると巨大な建物が目に入った。それがエコパである。横浜と違い周辺は畑、山しかない。だから余計目立っていた。ここはW杯会場の中で最もローカルな気がした。その分競技場へのアクセスは判り易くすんなりとたどり着くことが出来た。

競技場は混乱防止のため観客導線がホーム、アウェーの2つに分かれていた。これもW杯に向けた試験だなと思った。また、案内板の前にはジュビロのピブスを着用したボラスタッフを観客対応に追われていた。表示に従いホーム側(東サイド)のゴール裏2階席へ向かった。ゲートでは手荷物チェックが行われ所持品をこと細かく調べられた。セキュリティエリアを通過すると、スタッフからチケットをもちぎってもらい配布物を受け取りスタンドへ向かった。このゲートのスタッフはジュビロのピブスではなく、いわしん(磐田信用金庫)のポロシャツを着用していた。以前磐田スタジアムに行った時はジュビロのボランティアが対応していたのであれ?と、思った。おそらくエコパはキャパが大きいためボラだけでは対応しきれないので他団体に依頼したのであろう。

ゲートを通過しスタンドへ向かったが階段が思ったより急で狭く、コンコースも狭かった。明石の事故を思い出しW杯本番で大丈夫かな?と不安になった。トイレの数も少なく男子用でさえ外に行列が出来ていた。スタンドに入ると静岡の自然をイメージした座席のコントラストが目飛び込んだ。野山の緑にオレンジのウェーブ模様はすごく色鮮やかできれいだった。また、バックスタンドの[SHIZUOKA]のロゴも良かった。

ここはサッカー専用でないものの陸上トラックとスタンドのピッチが狭く予想していたより見やすかった。ただ、サッカー専用スタジアムをホームグラウンドにしている両サポーターにとっては見にくかったかも知れない。試合の方は3 - 1で磐田の勝ち、1stステージのリベンジを果たした。

帰りは途中から行き先別に導線が分けられ駅では上り、下りの発車時刻をずらして対応していた。横浜と違い交通手段が電車しかないので混乱防止のためには致し方ないだろう。菅沼 哲也 (U)



静岡スタジアム



『第3回ホームタウンサミット』

9月15・16日にジュビロ磐田スタジアムのある静岡県磐田市で開催された“第3回全国ホームタウンサミット”に参加してきました。全国のJ1・J2チームのある地域からホームタウンづくりに活躍している団体が参加しての情報交換の場で、今回のテーマは「更なるホームタウンをめざして」と題して、ホームタウン活動の原点を検証し、今後の活動方向を明確にしようというものでした。2部制で行われたこの会の第2部が“全国ホームタウンボランティア交流会”で、こちらをメインに参加した私でしたが、第1部のホームタウンについての活動や考え方などを聞き、とても奥深いものを考えさせられました。「チームは私たち(市民・行政)に何をもたらしてくれるのか」「私たち(市民・行政)はチームに何ができるのか」この両者の関係を地道に実践していたり、考えていたりする人たちがいることは、とても刺激になり、「我が横浜は、自分はどうなんだろうか」と振り返ることができました。横国ボランティアの1人であり、それ以上でもそれ以下でもない私が振り返ったところで「何ができるの?」と思いますよね。私もそう思います。でも、私たちボランティアの活動そのものが、横浜のスポーツ文化の一部であり、ホームタウンに触れているところだと思うと、やはり地道に活動することが私の役目であることを実感しました。そして、少だけチームに対する歩み寄りが必要な、とも思いました。とても硬く書いてしまいましたが、同じ志を持つ人が集まった会は、とても楽しかったです。だって、みんな熱い人ばかりなんですから!

ちょっと番外編のような内容でしたが、最後にジュビロ磐田スタジアムについて。サッカー専用スタジアムでこじんまりとした温かい感じのするスタジアムでした。その温かさは、磐田市がもたらすもののような気がしました。宮川 弘恵 (U)

『Jリーグ研修』に参加して

その1 去る6月16日(土)、見学ボランティア対象のJリーグ研修会が行われ、横浜F・マリノス vs FC東京の試合を観戦しました。試合前の選手の様子、プレス・警備等の動き、また普段一緒に活動することのない運営ボランティアの方々の活動を実際に見学でき、大変有意義な研修となりました。

私たちが活動するのは競技場に誰もいない静かな日です。風やスプリンクラーの音を聞きながら、スタジアムの大きさを感じつつお客様を案内していますが、歓声と熱気に包まれた競技場本来の姿を伝えることができるか、といつも悩むところでした。しかしこの日、ウォームアップルームで体を動かしている選手、忙しくピットを行きかうプレスや関係者、スタジアムに響きわたる拍手や歓声を実際この目で見て、また感じて、ツアー時の説明に具体的なイメージを持てるようになりました。研修後のツアーに力が入ったことはいうまでもありません。

今回の研修で競技場の魅力を再認識し、試合が円滑に運営されるために多くの人のサポートがあることを実感しました。この経験をぜひツアーの中に活かし、一人でも多くの方が競技場を訪れてくれるよう努力していきたいと思っています。

前田真理(T)

その2 我々見学ボランティアは試合のない日に場内を案内する仕事のため、実際に試合を見るチャンスはありませんでした。私自身今までテレビでは何度もいろんな試合は見っていますが、実際にグラウンドで試合を見たことはなかったのです。初めての観戦というわけで張り切って参加しました。当日の試合は横浜F・マリノスとFC東京との試合でした。

まず選手がバスでマラソングートの所へ到着するところから、ウォーミングアップするところまで、また実況放送しているところ等今まで見たことのない箇所を充分見せていただきました。まず選手がネクタイ、スーツ姿で到着したのに驚き、また川口選手のウォーミングアップ姿を目の前で見て年甲斐もなくちょっと興奮しました。その後客席で試合を見せていただいたのですが、その間運営ボランティアの方々が実際に仕事をしておられるところでは、大勢のお客様相手にてきぱきと対応しておられるのを見て大変な仕事だなと感じました。

この研修会の後、2回ほど見学案内をしましたが、この見学研修会のお蔭で、今までしていた説明にずいぶんアドリブを付け加えることができました。実際に見たことを説明するわけですから自信をもって説明できますし、説得力があります。

今から思うとこのような研修会をもっと早い時期に計画していただければよかったのにと考えた次第です。

奥村幸正(T)



ツアー企画スタッフ募集

ソウルワールドカップスタジアム見学ツアー&現地ボランティアとの交流会を計画中です。一緒にツアーを企画して下さる方を募集中です。

ご希望の方は事務局までご連絡ください。

浅見圭一(T)

ボランティアの声

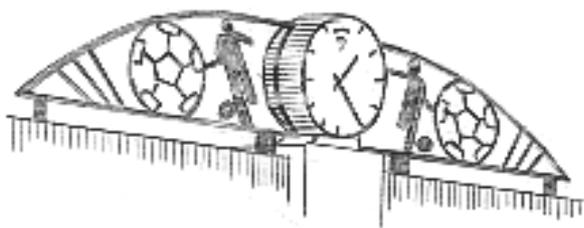
私は、これまでいろんなボランティア活動に携わってまいりましたが、それぞれのボランティアのよさについて、その活動に携わっているボランティアの方々から多くの意見が出されていました。

しかし、横浜国際総合競技場の運営ボランティアをやるようになって、今年で3年目になりますが、その中で感じていることは、このボランティアをしている方々の中で、このボランティアの良さについての意見が少ない事です。自分が携わっているボランティアについての良い意見が少ないことって、なんだか寂しいような虚しいような気がします。確かに、このボランティアは、創設されて日が浅く、まだまだ色々な問題点や欠点がありますが、それだけではないと思います。このボランティアにだって、必ず良い点はあるはずですよ(とこういうものの、私自身もこのボランティアの良さをまだ見つけられていませんが...)。ひとつ思う事は、このボランティアが、競技場によって運営されているという点は、日本ではあまり例を見ないことであり、このボランティアが、Jリーグやスーパー陸上、コンフェデ杯などのボランティア活動の経験を経て、さらに、今後競技場で行われるであろう多くのスポーツイベントでボランティア活動の実績を積む事が可能ならば、このボランティアはスポーツボランティアとして、何かその良さが、出てくるのではないかと、考えています。今後、このボランティア活動をしていく中で、このボランティアをしている方々から、少しでも多くこのボランティアの良さについての意見が聞けるといいなと思っています。 運営ボランティア(U)

競技場ア・ラ・カルト

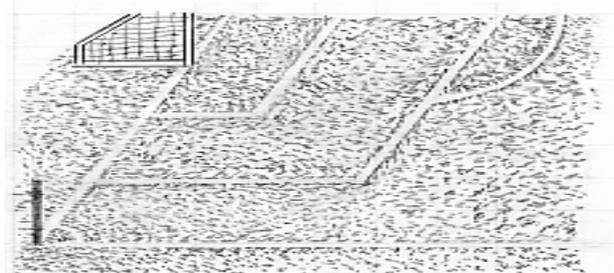
モニュメント時計

四季を問わず何時も来場者で賑わっている東ゲート広場に6月初め、両脇にサッカーボールを蹴り出そうとする人のレリーフが飾られている時計が設置されました。これは社団法人韓国青年会議所の在日機関である海外地区青年会議所から寄附されたもので、直径70cmの内照式太陽電池時計です。広場でくつろぐ人々を眺めながら、韓国と日本、そして横浜とさらなる友好の証として時を刻んでいます。



白線

サッカー・アメフトなどフィールドラインが必要な競技では、その都度芝生の上に「グランドライナー」という塗料で白線を引きます。これは芝のライン用に特別に開発されたもの。たとえばサッカーでは、全長710m・幅12cmのラインを引くのに1缶(約9.6L)を1.5倍の水で薄めて使用。翌日別の競技をする場合は、前日の白線の上に芝と同じ緑の塗料を塗って消し、新たなラインを引きます。



OFFSIDE・おかしも

ボランティア活動も3年が経ち、笑顔で迎えることが自然と身についていると思いますが、今回はあえて“笑顔”について考えてみましょう。

「こんにちは」「いらっしゃいませ」とゲートで挨拶する時、明るく元気な声と笑顔でお客様を迎えていますよね。ただ、混雑時には笑顔も崩れがち。お客様をスムーズに入場させるためには配布物を必死に渡さなければならないので、仕方のないことかもしれません。そんな時は明るい声で笑顔を表現させましょう。声で笑顔、表現できるんですよ。

お客様から「さっき聞いた人からこう言われたのに・・・」と他のスタッフから間違ったことを教えられていた時、そのお客様に対して「申し訳ございません」と言えますか？自分が間違えたわけではないのですが、スタッフの一員としてはお詫びすることが当然ですよ。お詫びをした後、安心感を与えられる笑顔で正確な情報をお教えしましょう。

東側の指定席と自由席の境い目のチケットチェック、自由席の方が通ろうとした時、遠回りになりますがお断りしなければなりません。そんな時には申し訳ないという気持ちを表す笑顔で対応すれば、少しは遠回りすることに不満を感じさせないのでは？

笑顔には種類があります。うまく使いこなして笑顔の達人になりましょう！

紙上見学ツアー

夏の見学ツアー当番の日、新横浜方面から来ると競技場近くを流れている鳥山川は雑草に覆われて水面も見えないくらいです。その川に沿って競技場に向かうと労災病院や競技場へのスロープはすべて白が基調なのに気がつきます。夏の直射日光を浴びてまぶしいのなんの。そして、スロープを昇りきるとエントランスの階段の脇へ逃げ込むように管理事務所へ続く通路へ。日陰にあるこの通路は涼しい風がいつも吹いているので、ここまで来ればほっと一息という感じです。今までかいた汗も事務所に着くまでにはすっかり消えてしまいます。そこで夏の当番のときは緑の多い小机から来れば良かったなと後悔している自分に気がつくのです。

考えてみると小机からの道はちょっとした田園風景なのに対して、新横浜のほうはビルばかりです。あいにく、競技場もコンクリートでできていて、味気ないことこの上ない。せっかくのボランティアも朝から気合いが入らない原因はこんなところにあつたのかもしれない(きっと私だけでしょう)。

年間の活動回数からすると夏の活動機会はあまり無いかもしれませんが、朝からまぶしい都会を避けて小机からの田舎道(失礼!)から来るといいんじゃないでしょうか。



いんふおーめーしょん



横浜国際総合競技場事務局だよ！

みなさあーん！！

よ～やく、競技場のオリジナルホームページができましたあ～。みなさんのことも紹介してますよ。ぜひ開いてみてくださいね。

競技場では日々いろいろな事が行われていますよ。西田場長のないしょ話やイベントの開催風景、撮影取材の裏話、などなど・・・。

1週間ごとにとっておきの新情報がお手元に届きます。皆さんのご意見もお待ちしております。アドレスは、

http://www.city.yokohama.jp/me/sports/intoro_3.html

今後のイベントスケジュール

10月	17日(水)	Jリーグ VS 名古屋グランパス
	20日(土)	Jリーグ VS セレッソ大阪
	26日(金)	第32回ジュニアオリンピック 陸上競技大会
	28日(日)	
11月	3日(土)	Jリーグ VS 鹿島アントラーズ
	4日(日)	日韓障害者サッカーフェスティバル
	10日(土)	横浜国際ちびっこ駅伝

* 網掛けしてある斜体字の日は ボランティア活動予定日です

10月・11月・12月のスタジアム見学ツアー

10月 18日(木)・19日(金)・21日(日)・24日(水)

10月の開催時間 11時・13時・14時・15時・16時 (1日5回：1回の予定所要時間約40分)

11月 7日(水)・8日(木)・11日(日)・14日(水)・16日(金)・17日(土)・18日(日)・21日(水)・22日(木)・23日(金)

12月 5日(水)・8日(土)・9日(日)・12日(水)・15日(土)・16日(日)・19日(水)・22日(土)・23日(日)・26日(水)

11・12月の開催時間 11時・13時・14時・15時 (1日4回 1回の予定所要時間約40分)

今回は、時々耳にする日本代表ユニフォームの左胸に付いているエンブレムの黒い鳥。人呼んで三本足のカラスについて、話してみようと思います。

あのカラスは、中国の古典に登場する八咫鳥(ヤタガラス) 又の名を

『三足鳥』とも呼ばれ、日の神つまり太陽を象徴するものと言われております。

日本代表のエンブレムは、『八咫鳥』つまり『日の神太陽』が付いていると思ってください。チョット見方が変わるかもしれません！

サッカー
豆知識



ボランティアサッカー部だよ！ 10月7・8日競技場で開催されました『2002分フットサル大会』にボランティアA・B・Cの3チームが参加しました。結果は、AチームとBチームが2敗、Cチームが2勝でした。尚、サッカー部員は、いつでも募集しております！事務局又は、橋口まで連絡を...！(編集部 橋口)

JAWOC NEWS ボランティア研修会 8月の東京本部(IMC)の全体研修で始まり、9月には8日と20日に横浜の2会場で1900名に4回に分けての講演、業務概要説明などの全体研修会が開かれました。

仮配置 10月末迄にはいよいよ各業務の仮配置が決めるようです。これによって各業務別実務研修も順次始まってゆくでしょう。**ユニフォーム発表** 10月中旬には注目のボランティアユニフォームの日・韓同時発表があります。グッドデザインを期待しましょう。

編集後記

総会・交流会から発行日までの日時が非常に短かったにも関わらず、原稿依頼を快く引受けてくださった方からは締切日までに送っていただき、とても助かりました。ありがとうございました。研修会でも話しましたが、ご意見・ご感想等ございましたら編集部までご送付ください。皆様の投稿をお待ちいたしております。(第6号編集担当 高瀬)

「ボランティアメーリングリスト」ご参加のお知らせ(管理人：前田 哲哉)

参加希望の方はメールアドレスに氏名、ID番号明記の上、下記までお申し込みください。
vfe02110@nifty.ne.jp (尚、第3号でお知らせしたアドレスから変更しています。)

【編集委員】(太字は新メンバー) 浅見圭一 井上敦子 石崎智子 緒方二三男 瀬戸朗功 百々邦男
浅井悦子 橋口 正 高瀬 勝 青木義次 安田十四雄 中村 香 安部由美 江部和夫 岩松節子
大橋靖子 山口彰悟 菅沼哲也 島田千尋 宮川弘恵 蓬田光雄 片岡節子 前田哲哉 鈴木麗子
栗原 智 栗原芳範

編集・発行 / 〒222-0036 横浜市港北区小机町 3300 横浜国際総合競技場内

ボランティア会報誌『ボランティア』編集部 Tel:045(477)5006 Fax:045(477)5002